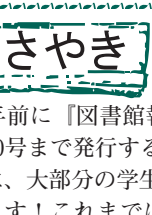


◆図書館スタッフのオススメ本を紹介します

 最強の読み方 池上彰、佐藤優 著 東洋経済新報社 僕らが毎日やっている最強の読み方：新聞・雑誌・ネット・書籍から「知識と教養」を身につける70の極意	2人が毎日やっている「最強の読み方」最新の全スキル。「普通の人ができる方法」をやさしく具体的に解説。重要ポイントがすぐわかり、読みやすく、記憶に残る。具体的な新聞・雑誌リスト、おすすめサイト・書籍も紹介しています。 002.7 IK [本館]
 共謀罪とは何か (岩波ブックレット) 海渡雄一、保坂展人 共著 岩波書店	犯罪に関わることを「話し合っている」段階で犯罪となり処罰される法制度、共謀罪。「共謀」の定義と成立要件、この法制度の危険性や問題点、誕生の経緯などを解説し、共謀罪が犯罪の抑止に有効かを探る書籍です。 326.81 KA [分館]
 日本国民をつくった教育 寺子屋からGHQの占領教育政策まで 沖田行司 著 ミネルヴァ書房	明治維新と敗戦によって日本の教育のあり方がどのように変わっていったのかを探る。日本の教育の現状を歴史的にとらえる視野を獲得できます。学びのかたちの変遷に現代へのヒントを探る、温故知新の教育読本です。 372.1 OK [本館]
 仕事も人間関係もうまくいく ANAの気づかい ANAビジネスソリューション 著 KADOKAWA	ANA社員たちが日々実践してきた「気づかい」のコツをまとめたものです。人から人へ受け継がれてきた、「口伝の技術」を公開しています。「ちょっとしたコツ」を、具体的に紹介した1冊です。 687.06 AN [本館]
 法律トリビア大集合：法律って意外とおもしろい!! 第一法規法律トリビア研究会 編著 第一法規	意外な決まりや言葉の不思議な魅力を公開。法律についての発見が満載のトリビア集。アメーパブログで更新中の「いくつ知ってる？法律トリビア」のこれまでに掲載した記事の中から厳選したものを書籍化。身近な題材を取り上げ、気軽に読める新書です。 320 DA [分館]
 経済を見る眼 ービジネス現場で役立つ 伊丹敬之 著 東洋経済新報社	ビジネスマン、経営者に必要な経済の仕組みと知識を解説。経営学第一人者が書き下ろした実践的な経済入門書。ビジネスの現場で遭遇する疑問に答えつつ、実践的な経済の考え方や見方を解説しています。 331 IT [本館]
カラダの知恵 細胞たちのコミュニケーション (中公新書) 三村芳和 著 中央公論新社	人間のカラダに潜む知恵と不思議に迫る一冊。健康や情緒を司るカラダの内部の情報伝達の仕組みを、医師がわかりやすく解説。 463 新 [本館]
新編銀河鉄道の夜 改版 (新潮文庫) 宮沢賢治 著 新潮社	貧しく孤独な少年ジョバンニが、親友カムパネルラと銀河鉄道に乗って美しく悲しい夜空の旅をする、永遠の未完成の傑作。表題作の他、「よだかの星」「オツベルと象」「セロ弾きのゴーシュ」など14編を収録。 913.6 MI [本館]

ささやき

25年前に『図書館報』の名称で創刊された『図書館だより』も50号まで発行することができました。四半世紀前ということは、大部分の学生のみなさんが生まれる前ということになります！これまでにご寄稿いただいた先生方を始めとして、ご協力いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。

平成29年10月25日 発行
編集 図書館だより編集委員会
発行 白鷗大学総合図書館
〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117
ホームページ <http://hakuoh.jp/library/index.html>
印刷 第一印刷株式会社

図書館だより



HAKUOH

第50号 2017.10

白鷗大学

図書館は一生の友

法学部教授・総合図書館館長
鈴木孝之



図書館は、人生行路のいずこでも私に寄り添ってあった。小学校の低学年の頃に、教室の片隅に皆で本を持ち寄って作った学級文庫も初めて会った小さな手作りの図書館といえよう。

高学年になった夏休み間近の時期、校庭のプールでの水泳の後、図書室に寄って借り出した本を、緑陰読書としゃれた子供心が懐かしい。自宅にない全32巻の平凡社世界大百科事典を何度も引いて、好奇心を満たした中学校の図書室。級友に刺激されて、難解な哲学書を借り出した高校の図書室。そして、休日に通ってお世話になった区立図書館。

大学の図書館は、規模が大きく、学問への心構えを問われる気がした。就職先の公正取引委員会で、なぜか図書係長にもなった。1978年に赴任した西ベルリンでは、完成したばかりの州立図書館の巨大で超現代的な建築デザインが眩しかった。

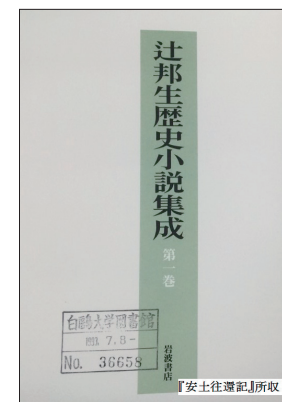
1995年に公取委で官房総務課長となった。同課長職は図書館長も兼ねていた。公取委の図書館は、同時に国会図書館の支部図書館であったから、私は国会図書館支部図書館長を兼務し、国会図書館の職員バッジを支給された。このバッジを付けていると、国会の建物の中にフリーパスで入れたので、国会議事堂の中を自由に歩き回っている

頃も懐かしい。

2003年に大学教員に転じた後は、図書館は専門書の探索に欠かせない身近なものとなった。今年4月には、総合図書館の館長を命じられて、図書館と自分の縁をそれなりに思い起こした。

人々は、本を通じ、時空を超えて文化的刺激を与え合う。学生時代、友人の下宿で麻雀に興じていた時、半荘が終わってふと後ろの机上を見ると、辻邦生の『安土往還記』が読みさしのまま置いてあった。何故か肅然とした気持ちになり、遊んでばかりもいられないと、同じ本を図書館に借りに行った。そして今、本学の図書館も学生・教職員の知的触れ合いの場であるに違いない。

図書館は一生の友であり、本を読む人とは、生涯の親友になることができる。イギリスの作家ジョン・ゴールズワージーの『林檎の樹』を紹介してくれた学友とは、お互いの来し方行く末を今も時に一献傾けつつ、共感しながら語り合っている。



文字の話 2

経営学部准教授

Amann Clemens



中世ヨーロッパの修道院には、図書館のほかに本を書き写す、つまり写本を作る場所もありました。図書が非常に稀であったその時代、資料を書き留めて伝えるために－当時は主にキリスト教の教え－修道士たちは羽根ペンを握って写本室で文書をきれいに、一つずつの文字を並べて描きました。章の最初の文字を飾り大文字にして、挿し絵に高価な染料を使ったりして写本が修道院の宝になるように全力を尽くしました。

大変つらい仕事で、昼間の光で、書き物台の前に立って書く修道士は手、背中を痛めて、目を悪くした人もいました。数ヶ月後一冊の手写本ができあがったら、蔵書として図書館に追加しました。

当時の「読み」「書き」は専門家しかできなかった技術でした。若い頃から修道士の一部はこういう技術を学んで、同時に教会の言語であったラテン語あるいはギリシア語も勉強していました。しかし中世ではこうした範囲の狭い「文字の文化」に対して「声の文化」の方が社会を圧倒しました。それぞれの国の母語を話して、読み書きが出来ても、普通の人たちは社会的な生活の面では口頭による伝え方に重きを置きました。例えば契約を結ぶ時に、たとえ契約書が書かれても、大切なのは関係者たちが皆集まって、その時その場で賛成反対を言うことが出来ることでした。文字だけで、関係者の話し合いなしで結ばれた契約書は、なかなか信頼を得ませんでした。あるいは書物があっても朗読で聞かせました。主な日々の営み、祈りから知識を伝えるまでは文字によらない声の文化が人と人を結びました。

近代になってから、知識も文字も教会の縄張り

を超えて行きました。そして「声の文化」より「文字の文化」が社会全体に入り込みました。この二つの文化的な範囲を興味深く本で紹介したW.Ongという学者は「文字の文化」の特徴をこう説明しています：書くことは、口頭によるあちこちに回って、人と人を密接に結んでいる話の流れを、もっと直線的・計画的な流れに変えるが、同時に人と人の間に距離を置きます。書くことによる相手の居ないコミュニケーション方法は、文字を声からも近い人間関係からも切り離す一方、人の考えにさらに筋道のたった力を与えます。ただし、もっと一方的なところもあります。

この文字の文化の広がりによって、特に印刷術の発展によって、文字と読み書きは一般化し、その伝達は学校と国の手に渡りました。図書館は－それぞれの国で市町村の公共図書館から国立図書館まで－膨大な資料を提供するようになって、中世の図書館が所蔵していた40、50冊、多くとも200冊と比べると、今の図書館にある数百万冊までの本の山は資料と知識がどれほど拡大したかを物語っています。そして声の文化も変わりました。電子機械の技術で人の声は発言の場所を問わずに伝わるようになって、話し相手が遠くても通じるようになりました。

情報にあふれるこの今の世の中で図書館の役割はどう考えればよいでしょうか？

まず図書館の構成から見ると、分野、学問に



よって書籍にアクセスできます。私は学生のころ、大学の図書館で資料を探しながら、勉強したいテーマに関してどれほどの資料、どれくらいの見方、側面があることが段々わかるようになりました。自分が興味を持っていたテーマはすでに幅広い研究の対象になっていて、その中で私のテーマはわずかの一部しか占めないことがわかり、そこから適切な資料を選ぶことさえ勉強になりました。最初はこんなにたくさんの研究資料に驚きましたが、同じテーマに関して見方、学派の異なった二つの書籍を比較しながら初めてそのテーマについての見通しを得ることができました。

次に、図書館は集中することが出来る便利な場所です。勉強の途中で一時やる気を失って

も、ちょっとした休憩の後、また勉強を続けることができるのが利点です。わざわざ図書館に行って書籍を提供してもらったならば、勉強を継続するほかありません。読書しながら書くことも刺激になります。読んだ文書を抜き書きすると、その内容をもっとはっきり掴むことができるし、記憶にとどまる可能性が高まります。

それだけではありません。書くことで読んだ内容を自分のことばに変えると、その読み物がまるで話し相手のようなものになって、読書が生き生きと進んでいます。そして人と話すときと同様に自らの考え、思いつきを促します。書くことによって人は考えや内容に対する理解を深めます。ちょっと孤独な活動ですが、考えたり分析したりするときの話し相手としては自分しか居ません。

図書館ニュース

◆国立国会図書館 図書館向けデジタル化資料送信サービス利用のお知らせ

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手困難な資料を館内で利用できるサービスです。



当館で「図書館送信限定資料」の閲覧も出来るようになりました。閲覧及び複写を希望される方は、カウンターにお申し出ください。

◆機関リポジトリを公開しました

**白鷗大学機関リポジトリ**
Hakuoh University Repository

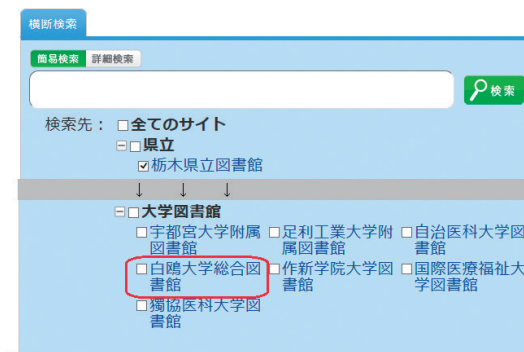
白鷗大学
トップ ランキング

鳥
詳細検索

全文検索 キーワード検索

Language	インデックスリスト
日本語	大学院法学研究科 [41件]
	法科大学院 [159件]
	経法学部 [666件]
	法学部 [391件]
	教育学部 [282件]
	法政研究所 [94件]
	女子短期大学部 [395件]
	発達科学部 [42件]

◆栃木県内図書館横断検索の対象になりました



白鷗大学機関リポジトリ
<https://hakuoh.repo.nii.ac.jp/>

白鷗大学における学術研究成果を収集、蓄積し、提供することを目的としています。
現在、収録対象としているのは、
紀要論文です。